

# 小噺・落語入門サロン

## ■ 前座 (今日の話題・話のネタ)



へびの小ばなし

## 落語歳時記シリーズ



### 巳年(蛇)の落語「蛇含草(じゃがんそう)」

隠居の家にみすぼらしい草がぶら下がっている。男「こんな汚い草、捨てなさいよ」

隠居「これは蛇含草というて珍しいもんや。山奥深くのうわばみが獺師とか旅人を呑み込んで腹が膨れた時に、この草をなめると腹の中の人間が溶けてすっきりとするというねん。

男「へえ、うわばみの消化の薬でっか。話の種に、少しもろうて行ってもよろしか」と、男は草を何本か甚平の紐にくくりつけた。

隠居は火鉢を出して正月の余った餅を焼き始める。餅が大好きで、大食い大会にも出るような男。隠居が焼いている間に我慢がならず、ことわりもなくパクパクと食べ始めた。

隠居「親しき中にも礼儀ありという。勝手に食べだすとはあまりにも私を馬鹿にしている。

行儀よくすれば、この餅みな食うたかて何も言わへんわいな」男「みな食いまひよか」

隠居「これだけの餅、一つも残さずよう食うか。一つでも残しやがったら承知せんで」

男「残しまへん。どんどん焼きなはれ」と、隠居が焼くそばからがんがんで行く。

焼く方も食う方も意地になって、男は餅を詰め込み過ぎて苦しそうに下も向けず、口、鼻、目、耳からも餅が溢れ出しそうになりながら帰って行った。

家に帰った男、かみさんに布団を敷いてもらって寝ようとするが苦しくて腹をさすると何かにさわった。「そうだ、蛇含草だ」と、手でむしゃむしゃと食べ始めた。

一方の隠居、さっきはこっちも意地になり過ぎたと、男の体を心配してやって来た。

「部屋を閉め切って何をしてんのんや」と、奥の部屋の障子を開けると、

……餅が甚平を着て座っていた。



## ■ 二つ目 (小咄の稽古)

映像や音声から学ぶ、小ばなしのコツ・つぼ

「プロに学ぶ小噺の話し方」落語の時間 “平林って何と読む?”

<https://www.youtube.com/watch?v=YT38gGeBTCE>

そのあと、皆さんの小ばなし披露とアドバイス

## ■ 大喜利

今回も **謎かけ** で、お題は「おせち料理」「おみくじ」とかけて

次回は2025年2月3日(月)「チョコレート」「梅」とかけて